



ポンプ車操法、小型ポンプ操法ともに優勝を果たした第5分団

第5分団がW優勝

町消防操法大会

平成26年度町消防操法大会は7月6日、町水防センター駐車場で開かれました。

大会には町消防団の6分団が出場。消防ポンプ操作の正確性や放水までのスピードなどを競い合いました。この結果、ポンプ車操法の部、小型ポンプ操法の部ともに第5分団が優勝しました。同分団のW優勝は、2010(平成22)年以来4年ぶりとなります。

成績は次の通りです。

【ポンプ車操法の部】

①第5分団②第3分団③第6分団

最優秀選手 指揮者=佐藤優樹(第5分団)、1番員=遠藤豊(同)、2番員=五十嵐史朗(同)、3番員=鈴木一史(同)、4番員=榊原靖之(同)

【小型ポンプ操法の部】

①第5分団②第6分団③第1分団

最優秀選手 指揮者=佐野康弘(第2分団)、1番員=本多雄介(第5分団)、2番員=渡部真史(第6分団)、3番員=遠藤辰朗(第5分団)



小型ポンプ操法の筒先員交代



全員が最優秀選手賞を獲得した第5分団のポンプ車操法



ヘイケボタルとゲンジボタルの大きさを比べる参加者

幻想的なひとときを体験

亀ヶ城公園でホタル観賞会

「いなわしろにホタルを呼び戻そう会(小橋勝幸会長)」が主催するホタル観賞会は7月13日、亀ヶ城公園で開かれ、親子連れなどが幻想的なひとときを体験しました。学びいなに集まった参加者らは、公園にある川沿いへと移動。夜空に舞うホタルを眺めたり、つかまえて手の平にのせたりして観察しました。この日は、ヘイケボタルとゲンジボタルの両方を見ることができ、参加者は光り方や大きさの違いなどについて会員から説明を受けました。

シーズン中の無事故を祈願

猪苗代湖5浜合同浜開きと安全祈願祭

猪苗代湖5浜の合同浜開きと安全祈願祭は7月11日、アンジュール猪苗代で行われました。上戸浜での実施を予定していましたが、台風の接近により屋内で行われました。長浜、松橋浜、天神浜、志田浜、上戸浜の各観光組合関係者ら約20人が出席。神事に先立ち、主催者を代表して菊地学上戸浜観光組合長が「事故のないシーズンになるよう願う」とあいさつ。神事では関係者らが玉串をささげて今シーズンの無事故を祈願しました。



シーズン中の安全を祈願する関係者



「大江山の鬼退治」を披露する長尾さん

磐梯山にちなんだ民話を披露

第13回いなわしろ民話祭り

昔ながらの民話や、猪苗代に伝わる伝説などを今に伝える「第13回いなわしろ民話祭り」は7月21日、町農村環境改善センターで開かれました。今年は磐梯山ジオパークに親しんでもらうため、「磐梯山と富士山の背くらべ」「へび丸の由来」など磐梯山にちなんだ民話を中心に披露されました。会員16人が方言を交えながら1話ずつを披露。会員最高齢となる94歳の長尾ムツさん(上新町)が語り終えると、会場からは大きな拍手が送られました。

社会福祉事業に役立てて

佐藤マツさんが町に寄付

佐藤マツさん(達沢)は7月23日、町役場を訪れ、社会福祉に役立ててほしいと町に1万円を寄付しました。佐藤さんは、文化センター建設協力金や社会福祉事業協力金として平成6年から毎年寄付を続けていて、平成21年には町の善行者表彰を受けています。前後町長は「善意をありがとうございます。有効に活用させていただきます」と感謝を述べました。



前後町長に寄付を手渡す佐藤さん(右)



50kmコースに挑むランナーたち

1500人が自慢の健脚競う

磐梯高原猪苗代湖マラソン

第9回磐梯高原猪苗代湖マラソンは7月12日、ホテルリステル猪苗代をスタート・ゴールに、猪苗代湖周辺を走るコースで開かれました。50km、フルマラソン、ハーフマラソン、10マイル(約16km)の4コースに合わせて約1500人が参加。台風一過で晴れ渡る空の下、ランナーたちは、磐梯山や猪苗代湖の景色を眺めながら、日頃のトレーニングや健康づくりなどで鍛えた自慢の健脚を競いました。

長年にわたる防犯の功労たたえる

福地久喜さんに防犯功労者表彰

約30年にわたり地域の防犯活動に取り組む猪苗代地区防犯協会連合会吾妻支部長の福地久喜さん(中の沢)への東北管区警察局長・東北防犯協会連絡協議会長連名の防犯功労者表彰伝達式は7月14日、町役場で行われ、前後町長が福地さんに表彰状を手渡し、長年の功労をたたえました。福地さんは「吾妻支部が防犯活動の手本となれるようますます尽力したい」と謝辞を述べました。竹田正人猪苗代署長が立ち会いました。



表彰を受けた福地さん(中央)



前後町長に受賞を報告した花雅の渡部雅幸専務(右)

農業の未来に希望の光

花雅が全国農業コンクールで優秀賞

大分市で7月17日に開かれた第63回全国農業コンクールの全国大会で、町内の農業法人「花雅」が優秀賞を受賞しました。同コンクールは、日本の農業に希望を与える先進的な取り組みを実践している農業生産者などを顕彰するもので、毎日新聞社などの主催。冬期の野菜や花を栽培するビニールハウス内の暖房にかかる燃料代を抑えるため、ビニールを2重にして間に温風を送り込む「エアハウス」のアイデアなどが評価されたものです。

林の中や浜辺を駆け抜ける

天神浜で東北シクロクロス大会

猪苗代湖の天神浜で7月21日、シクロクロスの大会「TOHOKU CX Project JECX サマークロス第2戦」が開かれました。シクロクロスとは、障害物がある不整地の周回コースを走る自転車競技で、ロードレース選手の冬季トレーニングとして始まったもの。この大会には東北や関東から約50人の選手が参加し、林の中や浜辺を駆け抜けました。参加賞として町のブランド米「いなわしろ天のつぶ」が参加者全員に配られました。



レースに挑む出場者たち



ロボットを操作し、腕立て伏せをさせる児童

楽しみながらロボットの役割学ぶ

長瀬小でロボット体験授業

長瀬小では7月14日、いわき明星大の高橋義孝准教授を講師に招き、ロボット体験授業が開かれました。同校の科学教育の一環で、1年生と4年生合わせて29人が学びました。1年生は、ロボットが人間社会にどのように役立っているかの説明を聞いた後、パソコンを使って二足歩行ロボットを操作し、ロボットの有用性について学びました。4年生は、鶏の手羽先の関節とロボットの関節を動かしながら比較実験を行いました。

町の農業振興への尽力に感謝

退任農業委員に感謝状贈呈

任期満了に伴い町農業委員を退任した皆さんへの感謝状贈呈式は7月14日、町役場で行われました。前後町長が一人一人に感謝状を手渡した後、長年の尽力にお礼を述べました。感謝状を受けた皆さんは下記のとおりです(敬称略。かっこ内は地区名)。

大川原けい子(上戸)、鈴木秀康(行津桜川)、佐藤智昭(曲淵)、佐藤睦弘(関脇)、古川文和(松橋)、山本廣市(半坂)、鈴木輝夫(西館)、笹岡正人(新町口)、穴澤清和(西真行)



前後町長から感謝状を受ける鈴木秀康さん(左)



親子連れなどに好評を博したミニSL

見て、体験して祭り楽しむ

学びいな夏祭り

2014 学びいな夏祭りは7月20、21の両日、学びいなで開かれました。学びいな内では、絵画や写真、手芸など、町体験交流協会加入団体の作品が展示されたほか、「猪苗代ふる里かるたとり大会」やビーズアクセサリ作りなども行われ、子どもたちの人気を集めました。屋外ではミニSLやミニ電車も運行し、親子連れなどから好評を博しました。21日には、オカリナ奏者の善久さんによるミニコンサートやオカリナ塾も開かれました。

ガーナとの交流深めるきっかけに

国分敏子さんが猪苗代小で特別授業

アフリカのガーナ共和国でボランティア活動をしている埼玉県出身の国分敏子さんによる特別授業が7月17日、猪苗代小で行われました。4月に町国際交流協会の会員がガーナに訪問し、国分さんと面会したことをきっかけに実現したものです。国分さんはガーナの子どもたちに図画・工作やそろばんなどを教えていて、同校の5年生44人を対象に、ガーナの学校の現状や子どもたちの生活の様子などを紹介しました。



ガーナの楽器「ジャンベ」を見せる国分さん(右)

犯罪のない明るいまちへ

「社会を明るくする運動」強調月間



7月15日の広報活動に参加した関係団体の皆さん

「社会を明るくする運動」強調月間の7月、町内では猪苗代地区の保護司会や更生保護女性会などの関係団体により、犯罪のない明るい社会を築くための活動が繰り広げられました。1日早朝にはJR猪苗代駅前啓発活動を実施。関係団体から参加した約40人がチラシやポケットティッシュなどの啓発グッズを配り、犯罪や非行防止を呼び掛けました。15日には町内で広報活動を展開。広報車で犯罪のない社会づくりを呼び掛けたほか、事業所などを巡回し協力を求めました。

長瀬小が3年連続の準優勝

交通安全子供自転車県大会

7月5日に福島市のあづま総合体育館で開かれた交通安全子供自転車県大会において、長瀬小が団体の部で3年連続の準優勝に輝きました。同校は、猪苗代地区大会と会津大会を制して県大会に出場。個人の部でも渡部未夢さん(6年)が優勝、柳沼あさひさん(同)が準優勝するなど、日頃の練習の成果を十分に発揮しましたが、石川小(石川町)に惜しくも敗れました。同大会には翁島小も出場し、団体の部で5位入賞の活躍を見せました。



県大会で準優勝に輝いた長瀬小のメンバー